

# 我が署の販売推進策について

大畑営林署 ○業務課長 進藤 善宏  
総務課長 山上 裕行

## 1 課題を取り上げた背景

従来から、ヒバ3.0m材の採材方法については、24cm以上の良質材とされており、ブナについては、通常2.1m材として販売されている実情にある。

しかし、業界からの意見を聞くと、ヒバは14～20cmの中小径木でも需要があることから、営林局と連携を図りながら、ヒバ全幹木の梢端部からもヒバ3.0m材の中小径木の採材をしたものである。

また、ブナについては、2.1m材の曲がりの強いものを、1.05m材に採材し、地元工場に販売した。

これら二つに共通することは、資材の有効活用・有利販売につながると考えたものである。

## 2 実行方法と経過

実行方法については、次の4点に重点をおいて実行しました。

- ①資材の有効活用に役立つもの
- ②一般材比率の向上につながるもの
- ③安定的需要の見通しがあること
- ④収入増となること

以上の4点について、情報把握に努めた結果、ヒバ3.0m材については、屋材として、タルキ・間柱が主に使用されている。

一方、ブナの1.05m材については、単板用であり、パチンコ台・椅子、近頃は変圧器（トランス）の内部として使われているところである。

その過程で残存する心材部はパルプに、単板の端材はチップ材に余すところなく利用されている。

これらの情報を集約した結果、次のような採材方法に取り組んだ。

ヒバについては、従来、梢端部では1.9m材のみ採材し、残りについては末木枝条として2次処分してきたところである。

しかし、ヒバ梢端部を最大限に利用するため、3.0m材を確保できるものについて採材したものである。

（図－1参照）

ブナについては、曲がりや腐れがあるもの及び長さが2.1mに満たないブナを重点に採材した。

（図－2参照）

### 3 結果

ヒバについては、(図-3参照)の採材方法から今年度約100m<sup>3</sup>の3.0m材を生産した。

これを、従来1.9m材しか採材していなかったので、単純に計算すると約34m<sup>3</sup>の資材の有効活用につながったと考える。

この100m<sup>3</sup>のうち、約77m<sup>3</sup>については公売に出品し、残りは随契で販売した。

次に、金額の比較ですが(表-1参照)1m<sup>3</sup>当たりの平均単価は、1.9m材では、7,100円で、3.0m材では30,600円となった。

1本当たり直すと534円と2,352円となり、その差1,818円という結果となった。

これは、随契分の比較ですが、公売分については初回の公売でm<sup>3</sup>当たり47,000円となったものが、回を重ねるごとに単価が下がり最終的には、32,000円となりました。

しかし、1.9m材として販売するよりも、約280万円の増収となる結果がでました。

このことから、資材の有効活用及び有利販売に結びついていると考えるものである。

次にブナですが、実行形態は請負で行い、平成7年度は7,700m<sup>3</sup>の広葉樹を生産する予定であり、内訳は、一般材が約5,400m<sup>3</sup>、同販材が約2,300m<sup>3</sup>となっています。

これまで、1.05m材を約280m<sup>3</sup>生産し、同販材の約11%を減少させることができました。

これは、一般材比率の向上及び資材の有効活用につながったと考えるものである。

次は、金額についてですが、280m<sup>3</sup>を請負事業体に低質材として販売したとすれば約30万円の金額になるが、これを1.05m材で販売した場合は、約590万円となりました。

この場合、約560万円の増収となりました。

(表-2参照)

1.05m材の需要がないとすれば、低質材(パルプ)として販売せざるを得ないことを考えると、材の有効利用及び有利販売につながると考えるものである。

### 4 考察

このことから、ヒバ・広葉樹ともに業界の需要を的確に把握し、採材した結果、資材の有効活用と有利販売に結びついています。

また、このことは地元工場の育成強化にもつながり、相互に大きなメリットがあると考えられるものである。

今後の課題としましては、需要の把握の重要性を認識することで、より一層の資材の有効活用及び収入の増大が図られると考えるものである。

图-1

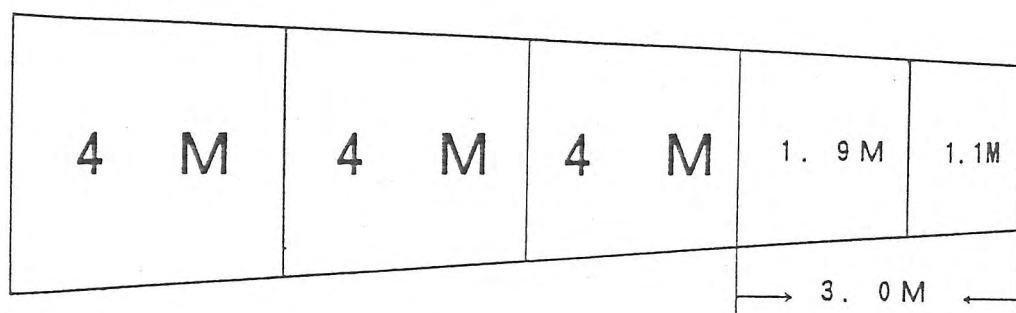


图-1

图-2

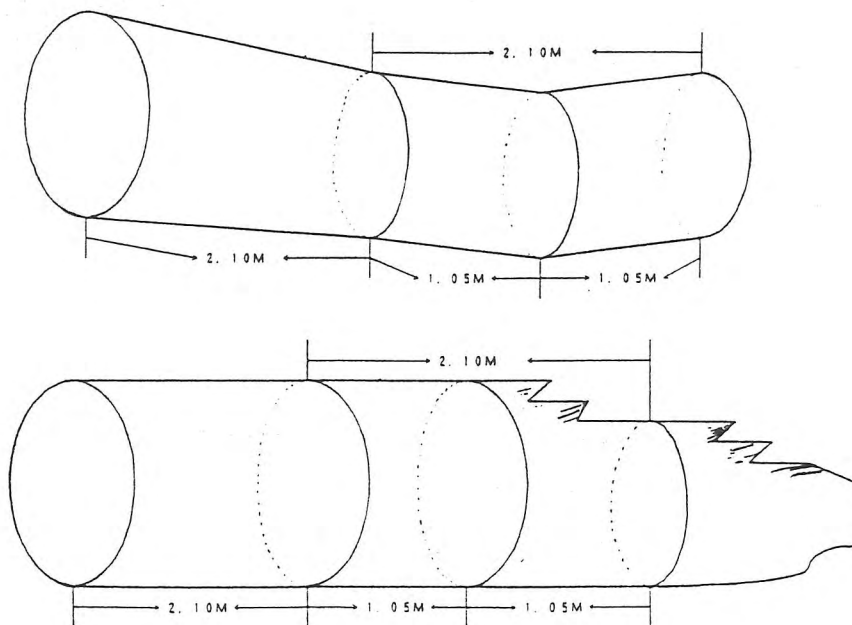


图-2

図-3

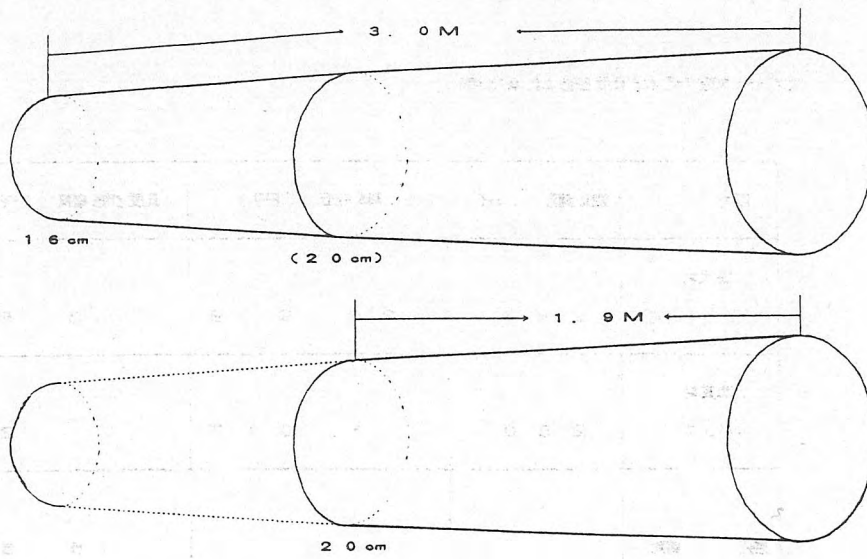


図-3

表-1

ヒバ長級別金額比較表

長級	径級	単材積	㎡当たり単価	本当たり価格	販売差額
M 1.9	cm 20	㎡ 0.076	円 7.100	円 534	
M 3.0	cm 16	㎡ 0.077	円 30.600	円 2.352	円 1.818

表-1

表-2

ブナ短尺材販売比較表

区分	数量 (㎡)	単価 (円)	販売額 (千円)
短尺材 (1.05m材)	280	20,979	5,874
低質材 (バルブ)	280	1,017	285
差 額			5,589

表-2